北海商科大学　講義概要（シラバス）

2026年度

科目名	市民社会と自由A	科目コード	1122	単位数	3
担当者名	見附　陽介	開講セメスター	第1セメスター	開講年次	1年次
授業の方法	講義	到達目標	B	実務経験	無
ナンバリング	BPh107	※DP（ディプロマポリシー）と到達目標の関連性については、カリキュラムマップ参照			

授業のねらい

現在、我々は自由な市民社会に生きている。しかし、そもそも市民社会とは何か。それは、どのように作られているか。それは、どこに向かうのか。これらの問題を学び理解するために、本講義では市民社会を基礎づける政治思想と、その具体的形態を理解する市民社会の学としての社会学を基礎から学び、そのうえで市民社会の進むべき道を論じる社会哲学について学習する。いずれの点でも基礎的な知識・理論に基づいて講義を行い、現代のグローバル社会のなかでコミュニケーション能力を発揮するための知的な土台形成を目指す。

到達目標

・市民社会の成立の歴史を学ぶことで、その特徴を理解できるようになる。
・市民社会を形作る基本的な理念とメカニズムを学ぶことで、他者と自身との社会的関わりを理解できるようになる。
・現代社会に関する分析と実践のための知の枠組みを習得する。

授業内容

1週目 オリエンテーション／市民社会の政治思想①：主権とは何か
2週目 市民社会の政治思想②：社会契約論
3週目 市民社会の諸側面：経済・組織・文化・情報／理解度確認小テスト①（学内Wi-Fi使用予定）
4週目 社会学の古典①：ウェーバー
5週目 第１週ー第４週まとめ／第一回試験
6週目 社会学の古典②：デュルケーム
7週目 社会学の基礎理論①：自己と社会（ミード）／理解度確認小テスト②（学内Wi-Fi使用予定）
8週目 社会学の基礎理論②：役割と相互行為（社会構築主義）
9週目 第６週ー第８週まとめ／第二回試験
10週目 社会学の基礎理論③：システムとしての社会（パーソンズ）
11週目 社会学の基礎理論④： 都市と逸脱（ラベリング理論）
12週目 コミュニケーションの社会哲学①：生活世界とシステム（ハーバーマス）／理解度確認小テスト③（学内Wi-Fi使用予定）
13週目 コミュニケーションの社会哲学②：公共性の発展（アーレント）
14週目 第１週ー第１３週まとめ／第三回試験
15週目 コミュニケーションの社会哲学③：実存と対話（バフチン）／前期授業の復習／テスト返却
16週目 テストフィードバック（質問受付）／再試験レポート対応（なお、期間中に休講があった場合は補講授業を行う）

準備学修（予習・復習）の具体的な内容及びそれに必要な時間

講義題目の人物名・キーワードに即して参考書などを読み、事前に知識を整理しておくこと（30分程度）。思想・理論の社会背景としての世界史の流れについても事前に把握しておくこと（30分程度）。配布されたハンドアウトや自分でまとめた授業ノートなどをもとに講義内容を復習するとともに、参考書などを使って補足的知識を自身で調べ学習すること（60分程度）。

成績評価の方法・基準

3回の試験および3回の理解度確認小テストの合計点によって評価する。ただし、授業態度が著しく悪いなどの場合は、減点措置をとることがある。

履修上の留意点

板書内容だけでなく口頭での説明なども積極的にノートに取ること。また出席は基本的にすべての回に出席することを前提とし、６回以上の欠席がある者は評価の対象としない。
理解度確認小テストは学内Wi-Fiを用いてオンラインで実施する予定なので、各自スマホやタブレットなど通信機器を持参すること（ただし、授業中スマホなどを使わない場合は、しまっておくこと）。

課題に対するフィードバックの方法

試験に関して、問題構成の解説と解答および解答のための知識と理論の補足説明を行う。必要の場合には、復習のために講義内容の再度の確認も行う。また、理解度確認小テストの結果をその場でフィードバックし、補足説明等を行う。

テキスト

特になし。

参考書

盛山和夫ほか編著『社会学入門』ミネルヴァ書房、2017年。
その他、適宜講義内で紹介する。

更新日付

2026/01/27 10:50